

第5回 社会貢献事例発表会の開催報告

Contribution to Society Case Study Presentation Report

社会貢献委員会

1 社会貢献事例発表会開催の概要

2015年1月24日、第5回社会貢献事例発表会が新たな試みとして例年の平日から今年度は土曜日に開催された。中国本部よりWeb会議システムを利用してリアルタイム中継も実施した。東京の発表会場に49名、中国本部に16名が参加した。

当日は、広報小委員会の委員長 大塚氏の司会にて、日本技術士会副会長 山崎氏の開会挨拶に始まり、4つの社会貢献事例の発表を行った。



写真1 東京の発表会場

2 事例発表概要

発表1

「南相馬市放射能対策実証試験チーム」
高橋正則（たかはし まさのり）
応用理学部門・建設部門

（副題：あの大事故現場から25km、この地での生活をあきらめぬために地元技術者ができること）



写真2 高橋正則氏の事例発表

2011年3月11日、東北太平洋沖地震が発生した際の地震動で、大津波来襲を確信した。大津波の来襲は、地震後1時間程度経ってからであり、津波被災の歴史が少ない南相馬市では、全市の10%が浸水し、525人の犠牲が出た。

3月14日には、福島第一原発3号機の爆発報道後、市外・県外にそれぞればらばらに全員避難することとなった。南相馬市では現在でも帰還できない住民が多く、震災関連死が直接死を上回る勢いで増加している。このため市内では、地震動・津波・放射能被害の3重苦に喘ぐ結果となり、復興も遅々として進まない状況にある。

南相馬市で実施した家屋の試行的な除染で、「希釈した過酸化水素水洗浄法」を実施し、これまで困難と考えられていた屋根瓦の高い洗浄効果を確認した。

除染水の浄化については、「モミガラ浄化法」を採用・実施した。

これからも長く続く、我々地元の復興の姿を、あたたかく見守っていただきたいと締めくくった。

発表2

「伝統工法「しがら組み」による市民治山への取り組み」

鳥居直也（とりい なおや）
総監・建設・応用理学・環境



写真3 鳥居直也氏の事例発表

小浜市上根来は、市街地から車で30分、標高300mの山里で、かつては炭焼きや農業等を営み人口300人を数えましたが、現在は住民実質ゼロ人となっている。地元には「百里会」という元住民の会があり、家

第5回 社会貢献事例発表会の開催報告

Contribution to Society Case Study Presentation Report

社会貢献委員会

屋や地域の維持に取り組んでおり、住民は
いませんが地域コミュニティは残っている。

そこでまちづくり・中間支援を目的とする
NPO 法人 WAC おばまが、百里会や地元産
業高校、行政、各種団体と協働で里山再生
事業をはじめました。

上根来プロジェクトの概要

- ・ゲストハウス整備
- ・登山道等の整備
- ・体験活動イベント実施
- ・アブラギリの活用
- ・雪の活用（雪室）
- ・しがら組み等の伝統的工法を使った地域
住民主体の治山の試行

『しがら組み』とは、木杭を等間隔に打ち
込み、杭間にソダや竹を編み込んだ簡易土
留めのことです。

ボランティアを続けるコツは、できる人
が、できるときに、できることを、右手に
スコープで（がんばろう）、左手にビールで
（楽しもう）と力説した。

発表3

「消費者安全調査委員会への貢献」

森山 哲（もりやま てつ）

電気電子部門、総合技術監理部門



写真4 森山哲氏の事例発表

機械式立体駐車場事故で、過去5年間で
26件の大きな事故が発生して、幼児3人
を含む10人が死亡している。家族の駐車
装置の操作で幼児を眼前で失うという最大
の悲劇であるにも関わらず、使用上の誤り
とされてきた。これを受けて消費者安全調
査委員会が事故等原因調査を行う事故とし
て選定した。

機械式立体駐車場における事故は、これ
まで使用上の問題とされてきた。しかし利
用状況を検討すると、普通の家庭の主婦を
含む多くの利用者が利用している現実と機
械式立体駐車場に備わっている機能・設備
に大きなギャップがあることが分かった。
ヒューマンエラーが起きても、重大事故に
ならぬ仕組みを作ることを報告書に盛り込
んだ。

技術士が、事故調査報告書の取りまとめ
に貢献したことで、

- ①国土交通省が法律改正し指針を発行
 - ②機械式立体工業会がまじめに取組み
 - ③マンションの現場でも意識が出来る
 - ④メディアも好意的に取り上げる
- という効果が上がった。

発表4

「広島土石流等防災への技術士の取組み」

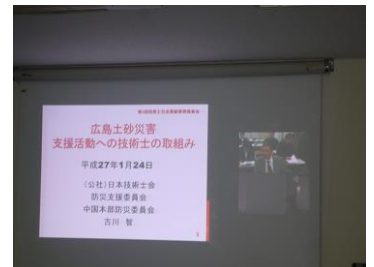
山下祐一（やました ゆういち）

古川智氏の代理

2014年8月広島土砂災害は、人的被害
として死者74人、負傷者44人、住宅被害
として全壊174件、半壊187件、一部損壊142
件、床上浸水1,166件、床下浸水3,080件に
上った。

発災後の取組みとして、

- ①現地防災会議の設置
 - ②災害ボランティア支援
 - ③被災者相談活動
 - ④現地派遣調査
- を行った。



Web会議システムを利用

被災者支援活動による知見と今後の課題

- ①災害ボランティア活動の支援
- ②被災者相談活動による支援
- ③自治会・自主防災会の支援

3 全体を通して

講演のあと、社会貢献委員会の委員長
橋場氏の閉会挨拶で終了となった。関心の
高い直近の話題でもあり、熱心な発表会で
あった。